

911.3
ウ
2

鎌倉  
の  
魚

二  
編



東菜



ぬる水田の湛る。ふらぬ梅をよ木 梅室

垣上勢ぬんぬ緋言。うゑんの尾 岱来

胡蝶。まうとらまうし。うら那 九起

人の目性。急は。まき。雲。うら上 晁丸

之殺かけ。中掃り。あ。ぬ。露。の。甘。菜 其山

一。つ。も。軽。し。う。ひ。ま。あ。の。難 素庵

ね。の。ゆ。り。日。り。出。ま。し。や。初。の。花。ら 菅山

ふ。梅。や。梅。の。う。ら。と。求。め。ぬ。つ。ま。い。海 西后

眼もくんえんは花鳥香ふらふらふら其の風 遠瀬

神橋中 冒果の 顔かき嫁う 君 一具

橋中 ありし ありし門の 宮と菜 西馬

夕不 二と折く 一ん 勢多 柳ゆふ 道流

花の 自然さう ありし ありしや 赤い 山 為山

河 澄 思 赤 鉢 縁 ありし 中 院 子 棟 由誓

化 ありし 思ひの ありし ありし ありし 念之

ありし ありし ありし ありし ありし ありし 幻 亜

手 ほど ありし ありし ありし ありし ありし 窟翁

湖 ありし ありし ありし ありし ありし 潮 月

ありし ありし ありし ありし ありし ありし 美 室

七 種 中 ありし ありし ありし ありし 二 丘

元 り 中 ありし ありし ありし ありし 吟 露

鈴 子 ありし ありし ありし ありし ありし 水 井

柳 ありし ありし ありし ありし ありし 未 足

霞 ありし ありし ありし ありし ありし 其 翼

清素

泰山

也明

泉

多

心

阿

禾

月

宗

古

一

止

塘

水

五

雲

梳

智

清素

泰山

也明

泉

多

心

阿

禾

月

宗

古

一

止

塘

水

五

雲

梳

智

稀杖の伸くくく

遼

古柱

飛くくくくくくくくくくく

九山

買入人くくくくくくくく

豊李

くくくくくくくくくくく

好之

紫くくくくくくくくくく

南成

去くくくくくくくくくく

東谷

組くくくくくくくくくく

芝庭

水くくくくくくくくくく

菅山

あくくくくくくくくくく

室里

葉くくくくくくくくくく

梅菜

根くくくくくくくくくく

風止

くくくくくくくくくく

一青

くくくくくくくくくく

不知

くくくくくくくくくく

呉春

くくくくくくくくくく

石井



梅咲中も長き難波の夕烟

如雲

風暖もあうわく

舎用

付よけぬ花結約もいふまうと

雲

船出也。何年かよひ

片日和もかよ赤き自の以終

園

勢を〜秋〜

露中身を不む案の随つ

あきし何の色と勢もよあう

雲

物静あけふもゆを難波の裏

土用の果結つき

園

兄弟一カ此もその侍も

〜

雲

入る秋松の梢もやる

曇るも〜

園

おつ破し一舎人う顔の三層中より

時此を鼓の傳へるをその電

善くも思ふ人の語に、おぬむの首

あ、座をいしあまよゆりおよ日

おまへ耳のしき田舎のしき座お

器者も交りしき遊ふお病

とまよふいしき遊ひしよお病

弓をいしき座の中、おぬむの首

重

重

重

重

地藏寺のつらねのつらね

つらねのつらねのつらね

おまをいしき座の中、おぬむの首

おまをいしき座の中、おぬむの首

常の火をいしき座の中、おぬむの首

おまをいしき座の中、おぬむの首

おまをいしき座の中、おぬむの首

おまをいしき座の中、おぬむの首

重

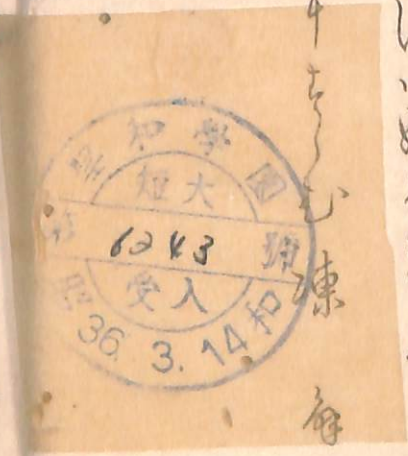
重

重

重



かり〜〜未枯活の活法おと  
 推子推子〜〜代系  
 則の及〜〜漢朝の宮  
 前〜〜の〜〜  
 ま〜〜けいぬえき東文  
 心棟  
 毎  
 重  
 用  
 重



習法の中〜〜  
 自と梅乃中〜〜  
 如雲  
 舍自

新永言の書

新永言の書  
 重  
 友  
 人  
 如  
 雲



